

平成29年度大和会東大和地区(東大和病院) 災害訓練(トリアージ) 参加報告書

南街・桜が丘地域防災協議会本部
平成29年07月15日

平成29年07月15日に平成29年度大和会東大和地区(東大和病院)災害訓練が、東大和市役所、東大和医師会/歯科医師会、東大和薬剤師会及び北多摩西部消防署の協力により実施され、当協議会からは模擬傷病者として6名(第二小学校PTA; 5名)及び見学者として5名が参加し、貴重な体験をさせて戴く事が出来ました。

災害発生時地域の拠点病院として我々住民にとって極めて重要な病院ですので、今後もこのような訓練には積極的に参加させて戴きたいと思っております。

患者受け入れ体制の確保

災害発生時病院での対応レベルが下記の通り区分されており、今回は13時30分に震度6の地震が発生し、病院全施設の被災状況を確認の結果14時15分に「レベル3B」で対応する事になりトリアージに向けて病院全体が準備体制の作業を開始し、14時30分に体制が整い患者の受け入れが開始されました。

レベル0 救急センターのみで対応可能

レベル1 救急センターの対応能力を越え災害対策本部の設置が必要
関連職員の応援を要する
診療体制は概ね平常通り、一部の外来で対応可能
予定手術は延期

レベル2 多くの関連職種への対応を要する

- ・外来を中止(あるいは被災患者優先とし)
- ・必要な新設部門を設置
- ・職員のマンパワー、被災患者の数に応じて中等症患者対応に外来ホールを使用
- ・軽症者【緑】は救護所(緑班)または外来で処置

レベル3 全職員で長期間にわたり対応

- ・全新設部門の設置
- ・当院の被害状況の程度で以下の3段階を判断

3A : 被害なし。概ね通常の診療が可能

3B : 被害あり。部分的に診療可能

3C : 甚大な被害。診療不可能(避難体制をとる)

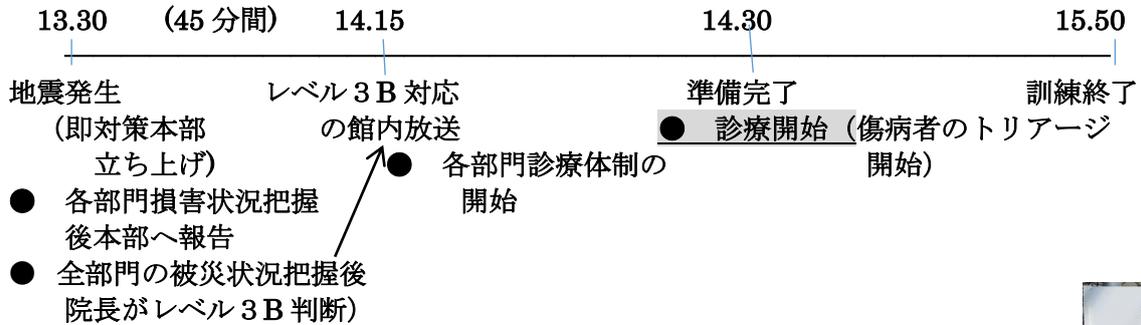
※自主登院は、震度6以上(多摩地区)とする。

①総務課は最新の職員名簿を対策本部に持参する。

②案内班は職員名簿を基に自主登院した職員の出勤を確認・把握する。

今回訓練のタイムテーブル

今回の災害訓練は基本的に事前準備をせずに実施し、地震発生後、「対策本部立ち上げ～診療体制の開始～訓練終了」迄の大凡のタイムテーブルは以下の通りでした。現実的にも診療体制の確保にはこの程度の時間が必要と感じました。



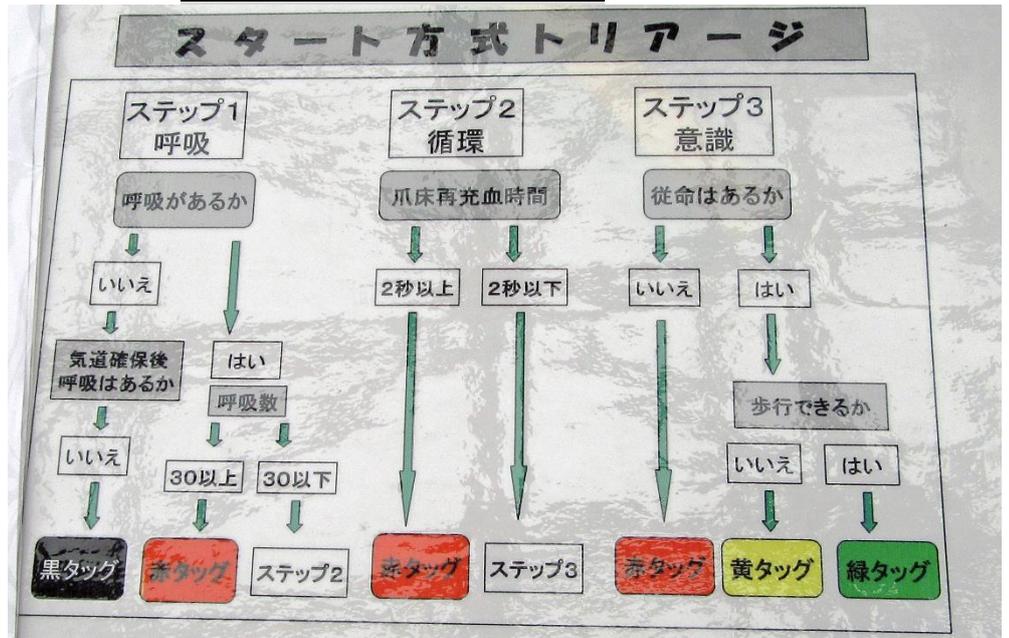
災害訓練(トリアージ)実施場所



トリアージタグ

トリアージ・タグ	
No. 17	氏名 (Name) 年齢 (Age) 性別 (Sex) 男 (M) 女 (F)
住所 (Address)	電話 (Phone)
トリアージ実施月日・時刻 (月 日 AM/PM 時 分)	トリアージ実施者氏名
搬送機関名	取容医療機関名 東大和HP
トリアージ実施場所 東大和HPトリアージポスト	
トリアージ実施機関 東大和HP	医師 救急救命士 その他
傷病名	
トリアージ区分 0 I II III	
0	
I	
II	
III	

トリアージ基本チェックシート



東大和病院側からの参加団体での訓練事前説明



模擬傷病者の待機状況



災害対策本部（作業状況）



状況の掲示作業中



部署	担当者	連絡先
事務・本部	事務	2511
看護部	看護	2512
コメディカル	コメ	2513
老健・居宅	老健	2514

部署	担当者	連絡先
事務・本部	事務	2511
看護部	看護	2512
コメディカル	コメ	2513
老健・居宅	老健	2514

部署	担当者	連絡先
事務・本部	事務	2511
看護部	看護	2512
コメディカル	コメ	2513
老健・居宅	老健	2514



緑診療班(セントラルクリニックにて実施；東大和市医師団が担当)



事前作業中



東大和市市役所職員



トリアージポスト(東大和病院正面玄関前；作業事前確認中)





トリアージ開始後の待機家族の不安な様子



トリアージポストでの患者受け入れ及び職員のトリアージ作業の状況





赤診療班(救急センターで実施)



救命治療作業状況



緑診療班(セントラルクリニックにて患者受け入れ/治療開始)



患者の受付状況



患者の治療状況



帰宅困難者
一時待機所



黒診療班

患者治療状況



霊安室への搬送



黄診療班(診療室)



患者の診療状況(待合室での診断作業)





医師が病状を確認



手術室へ移動

軽症者待機受付場所



担当者打ち合わせ



放射線担当部門



給食班の炊き出し状況(カレーが調理されました)



備蓄食料

H29年 災害訓練概要

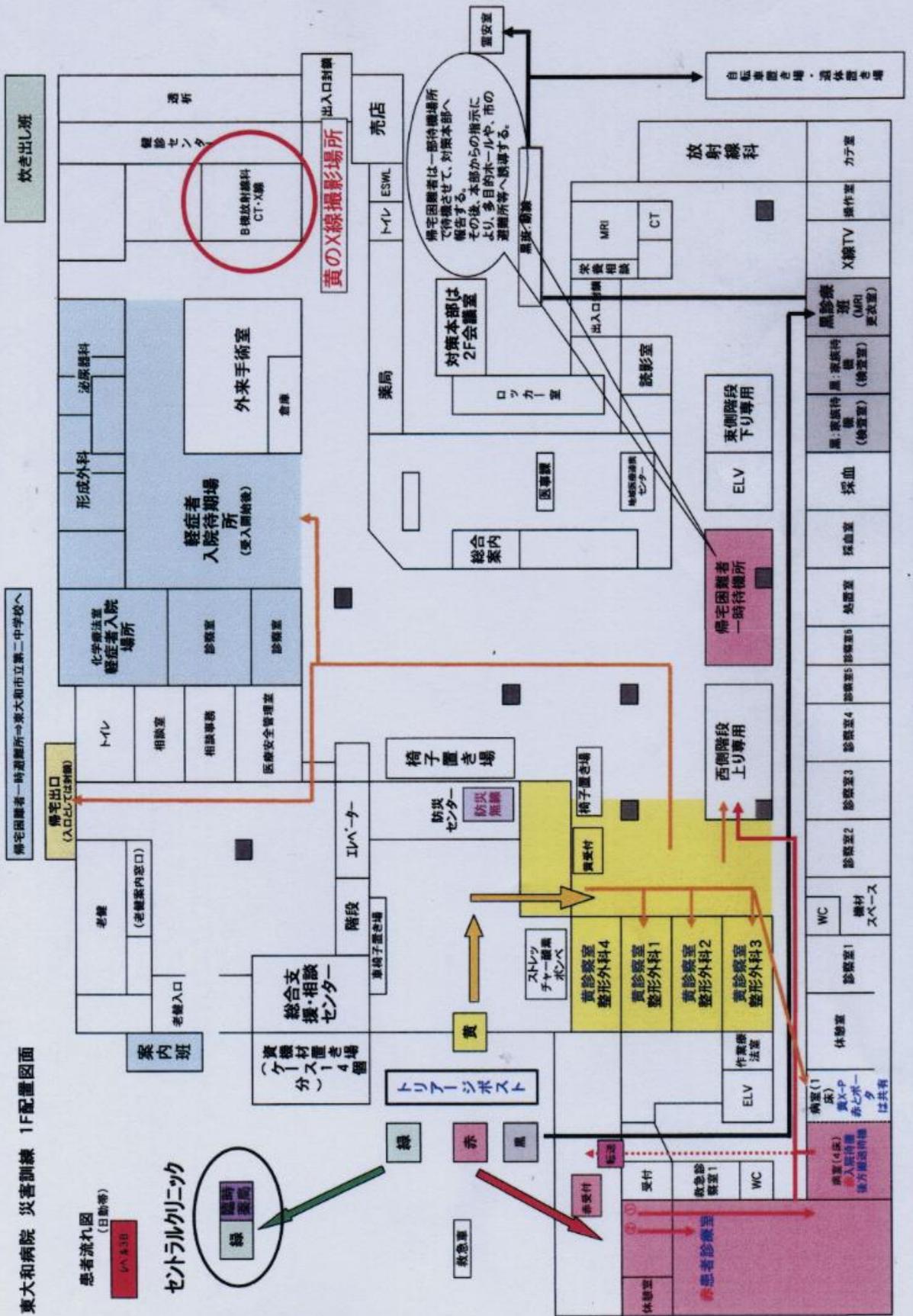
実施日程	平成29年7月15日(土) 13時30分～16時00分
訓練場所	東大和病院、東大和ケアセンター(多目的ホール使用可)、東大和病院附属セントラルクリニック
外部参加予定	東大和市医師会(軽症者対応・通信訓練)、東大和市役所(通信訓練)、東大和市薬剤師会、東大和市歯科医師会、北多摩西部消防署(救急車)、東大和市自治会(患者役)
重点目標	1.救急外来からICUへの重症患者の流れの確認(救外に滞留しないようにする。) 2.病棟の空床確保、増床体制の構築 3.セントラルクリニックと東大和市、東大和市医師会の連携確認
災害想定 (レベル3B)	1. 平日の日勤帯に、震度6弱の地震が発生 2. ライフラインの状況設定 ・水:使用可 ・電気:非常用電源のみ使用可 ・都市ガス:使用不能 ・エレベーター、電カル:使用不能 ・外線:使用不能 ・災害優先電話、PHS、内線:使用可 3. 建物の被害は限定的。各部署で棚の物品が散乱 病棟でけが人が数名発生している状況。
事前準備	1. 各部署のアクションカードを見直す 2. 事前勉強会(医師・その他の職種)、トリアージタグ勉強会、患者役説明会、机上訓練等を実施
訓練内容	1. 初動の流れをアクションカードに沿って実施されているか検証 ・発災時は自部署に戻る ・各部署は、患者・職員の安否確認・被害状況の確認を行い対策本部に報告する 2. エレベーター内の閉じ込め発生 3. 新設班立上げ、負傷者のトリアージと災害時診療を開始 ・各診療科長は新設部署への派遣者を決定し指示する ・各所属長は、決められた派遣部署への応援要員を決定し、派遣する ・負傷者の想定:赤5名、黄10名、緑10名、黒2～3名 ・トリアージ方式:二次トリアージPAT法 ・トリアージチェッカー(木庭副院長)を配置する ・帰宅困難者を院内待機場所(外来処置室前)へ誘導 4. 容態が安定している入院患者の帰宅訓練(帰宅者決定まで、搬送はしない) 5. 病棟で発生した負傷者、及び入院患者を老健2階多目的ホールへ搬送 ・老健2F多目的ホールへ移動する患者を決定する(各病棟1名) (訓練のため、この搬送に限りエレベーター使用可) 6. 炊き出しの実施
医師会、東大和 市との連携	東大和市医師会、市役所と合同で電話回線が不通となった場合を想定した、災害対策無線での通信訓練を実施予定。
消防との連携	救急車にて、重症者を病院へ反復搬送する。
当日の スケジュール	13:30 震度6弱の地震発生 14:15頃 対策本部より災害レベルと対応についての発表 診療体制の準備(新設部署準備)→受入 16:00 訓練終了

東大和病院 災害訓練 1F配置図面

患者流れ図 (自動帯)

1F 3.3B

セントラルクリニック



自転車置き場: 通体安置場【多数見込まれる場合】(黄から安置すること、通体安置場担当係が設置と管理)